

第 26 回 AMS シンポジウム

**The 26th Japanese Symposium on
Accelerator Mass Spectrometry
JAMS-26**

名古屋大学理学部南館 坂田・平田ホール

2026 年 3 月 26 日-3 月 27 日

主催

名古屋大学宇宙地球環境研究所 超学際ネットワーク形成推進室
日本 AMS 研究協会

The 26th Japanese Symposium on Accelerator Mass Spectrometry 第26回AMSシンポジウム



J-AMS 26

名古屋大学理学部南館 坂田・平田ホール
2026年3月26日ー3月27日

主催

名古屋大学宇宙地球環境研究所 超学際ネットワーク形成推進室
日本AMS研究協会

協賛

伯東株式会社 / 極東貿易株式会社 / エレメンター・ジャパン株式会社 / 株式会社 パレオ・ラボ

^{10}Be

^{14}C

^{26}Al

^{36}Cl

^{129}I

etc.

プログラム

3月26日(木)

08:30-09:00 受付
09:00-09:10 開会挨拶(日本AMS研究協会会長 松崎浩之)
09:15-10:30 Session 1: 年代測定研究報告
10:45-12:00 Session 2: AMS研究報告1
12:00-13:00 昼休み・日本AMS研究協会運営委員会(於 会議室)
13:00-14:00 ポスターセッション1(於 セミナー室)
14:00-15:45 Session 3: AMS研究報告2
15:45-16:30 ポスターセッション2・休憩
16:30-18:00 Special Session

S-1 Recent Status of KIGAM AMS Laboratory
Wan Hong (KIGAM, Korea)
S-2 Electrosynthesis of silver and copper iodide for ^{129}I
Accelerator Mass Spectrometry measurements
G. S. Burr (National Taiwan University, Taiwan)

18:00-18:10 記念写真撮影
18:30-20:00 懇親会(於 名古屋大学ES総合館1F レストラン「シェ・ジロー」)

3月27日(金)

08:30-09:00 受付
09:30-11:00 Session 4: AMS施設報告
11:15-12:00 日本AMS研究協会総会・学生発表表彰式
12:00-13:00 昼休み
13:00-18:00 公開講演会

「宇宙・太陽・地球・人類をシームレスにつなぐ
AMS融合研究の新展開」

スケジュール

2026年2月25日(水): 参加申込・講演要旨提出締切
参加申込はgoogleフォームから
(<https://forms.gle/Jf8FGahs7dqZLT1z5>)
講演要旨提出はe-mailにて
(jams26@nendai.nagoya-u.ac.jp)
2026年5月29日(金): プロシーディングス締切

第26回AMSシンポジウム 公開講演会(ハイブリッド開催)

宇宙・太陽・地球・人類をシームレスにつなぐ
AMS融合研究の新展開

2026年3月27日 13:00-18:00
名古屋大学理学部南館 坂田・平田ホール
参加費無料

時間	内容	発表者
13:00	開会挨拶	名古屋大学宇宙地球環境研究所 所長 廣代
13:15	超寿命放射線性核種による年代測定から明らかになる小惑星リュウウツの形成と進化	京都府立総合環境技術研究所 三浦 浩
13:45	AMSを用いた過去の気候変動研究の進展と展望	名古屋大学宇宙地球環境研究所 三宅 洋
14:15	^{14}C と有機化学成分で読み解く大気エアロソルの発生起源	東京大学大学院工学系研究科 池田 浩一
14:45	高層の氷床に残されている ^{10}Be 記録への気候変動の影響	名古屋大学宇宙地球環境研究所 藤田 謙
15:15	ICP-MSとAMSを用いた環境中ウラン汚染の経路推定	京都府立総合環境技術研究所 藤田 謙
15:45	休憩	
16:00	歴史文献による太陽活動強度と年輪・氷床コアデータとの比較	名古屋大学宇宙地球環境研究所 野田 真
16:30	新たな ^{14}C 研究から導くこれからの考古学編年	東京大学大学院工学系研究科 池田 浩一
16:55	光技術とAMSで探る古代科学の新展開	名古屋大学大学院工学系研究科 藤田 謙
17:20	研究データの可視化・検証性の向上を目指したAMSデータ駆動システムの開発と展開	名古屋大学宇宙地球環境研究所 藤田 謙
17:50	閉会の辞	

第26回AMSシンポジウム事務局
名古屋大学宇宙地球環境研究所 超学際ネットワーク形成推進室

E-mail: jams26@nendai.nagoya-u.ac.jp
URL: <https://transeha.isee.nagoya-u.ac.jp/for-the-public/JAMS26>

文部科学省 共同利用・共同研究システム事業～学際領域展開ハブ形成プログラム～「宇宙地球環境科学と歴史学・考古学を結ぶ 超学際ネットワーク形成」

JAMS-26

3月26日

8:30	9:00	受付	
9:00	9:10	開会挨拶	
<i>Session 1</i> 年代測定研究報告			
9:10	9:30	O1-1	加藤
9:30	9:45	O1-2	DANESHVAR
9:45	10:00	☆O1-3	土屋
10:00	10:15	☆O1-4	垣内田
10:15	10:30	O1-5	奥野
10:30	10:45	休憩	
<i>Session 2</i> AMS研究報告 1			
10:45	11:00	O2-1	星野
11:00	11:15	☆O2-2	富満
11:15	11:30	O2-3	南谷
11:30	11:45	☆O2-4	高見
11:45	12:00	O2-5	松四
12:00	13:00	昼食、運営委員会	
<i>Poster Session 1</i>			
13:00	14:00	ポスター1	
<i>Session 3</i> AMS研究報告 2			
14:00	14:15	O3-1	今山
14:15	14:30	O3-2	永井
14:30	14:45	O3-3	山形
14:45	15:00	☆O3-4	ZHIYUAN
15:00	15:15	☆O3-5	佐久間
15:15	15:30	☆O3-6	木村
15:30	15:45	☆O3-7	中居
<i>Poster Session 2</i>			
15:45	16:30	ポスター2、休憩	
<i>Special Session</i>			
16:30	17:15	S-1	HONG
17:15	18:00	S-2	BURR
18:00	18:10	写真撮影	
18:10	18:30	移動	
18:30	20:00	懇親会	

3月27日

8:30	9:00	受付	
<i>Session 4</i> AMS施設報告			
9:00	9:15	O4-1	横山
9:15	9:30	O4-2	阿瀬
9:30	9:45	O4-3	門叶
9:45	10:00	O4-4	小林
10:00	10:15	O4-5	神野
10:15	10:30	O4-6	佐藤
10:30	10:45	O4-7	吉田
10:45	11:00	O4-8	松崎
11:00	11:15	休憩	
11:15	12:00	総会	
12:00	13:00	昼食	

公開講演会

13:00	13:10	開会挨拶	
13:10	13:40	藤谷	
13:40	14:10	三宅	
14:10	14:40	池盛	
14:40	15:10	栗田	
15:10	15:40	大野	
15:40	15:50	休憩	
15:50	16:20	早川	
16:20	16:50	大森	
16:50	17:20	富田	
17:20	17:50	能勢	
17:50	18:00	閉会の辞	

第37回名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウムは
JAMS-26の一環として開催されます。

第26回 AMS シンポジウム

日時：2026年3月26日(木)–3月27日(金)

場所：名古屋大学理学部南館 坂田・平田ホール

プログラム

3月26日(木) 午前

8:30–9:00 受付

9:00–9:10 開会挨拶 (日本 AMS 研究協会会長 松崎浩之)

Session 1：年代測定研究報告

(座長)

9:15–9:30 O1-1

名古屋大学宇宙地球環境研究所 (ISEE) における、電子プローブマイクロアナライザー (EPMA) の現状と利用 (2025年度)

○加藤丈典¹

¹名古屋大学宇宙地球環境研究所

9:30–9:45 O1-2

Geochemical and Sr Isotopic Insights into the Pottery Provenance from the Irino Castle Ruins in Shikoku Island, Southwest Japan

○Narges Daneshvar¹, Masayo Minami¹, Yoshihiro Asahara², Yuhji Yamamoto³, Yu Kitahara⁴, Tetsuya Yamamoto⁵

¹ISEE, Nagoya Univ., ²Graduate School of Environmental Studies, Nagoya Univ.,

³Marine Core Research Institute, Kochi Univ., ⁴Kyushu Univ., ⁵Materials Design Center, Kochi Univ.

9:45–10:00 O1-3 (学生優秀発表賞対象)

愛知県天神山遺跡の縄文土器への地球化学分析の適用

○土屋隆志¹, 門脇誠二², 浅原良浩¹

¹名古屋大学大学院環境学研究科, ²名古屋大学博物館

10:00–10:15 O1-4 (学生優秀発表賞対象)

長崎県鷹島海底遺跡における元寇鉄製遺物の変質とコンクリーション形成過程

○垣内田 滉¹, 南 雅代², 門脇誠二³, 吉田英一³, 柳田明進⁴, 脇谷草一郎⁴, 天野由記⁵

¹名古屋大学大学院環境学研究科, ²名古屋大学宇宙地球環境研究所, ³名古屋大学博物館,

⁴奈良文化財研究所, ⁵日本原子力研究開発機構

10 : 15-10 : 30 O1-5

インドネシア、プロモ・テンガーカルデラ火山の新期カルデラの放射性炭素年代

○奥野 充¹, 三浦大助¹, 松尾将紀¹, 生野なつみ¹, Agung Harijoko², Indranova Suhendro², Haryo Edi Wibowo², 門叶冬樹³, 南 雅代⁴

¹大阪公立大学,²ガジャ・マダ大学,³山形大学,⁴名古屋大学

10 : 30-10 : 45 休憩

Session 2 : AMS 研究報告 1

(座長)

10 : 45-11 : 00 O2-1

ブナを伴う北海道石狩地方南部古植生の推移 —花粉分析と AMS¹⁴C 年代測定—

○星野フサ¹, 南 雅代², 中村俊夫³, 岡 孝雄⁴, 萩原法子¹, 春木雅寛¹

¹北大総合博物館植物ボランティア,²名古屋大学 ISEE 年代測定研究部,

³名古屋大学名誉教授,⁴北海道総合地質学研究センター

11 : 00-11 : 15 O2-2 (学生優秀発表賞対象)

南アルプス千枚岳南東斜面, 駒鳥池の泥炭堆積物の層序と放射性炭素年代

○富満千尋¹, 藤木利之², 林田 明³, 中西利典⁴, 南 雅代⁵, ホン ワン⁶, 松村虹希¹, 新地青空¹, 奥野 充¹

¹大阪公立大学,²岡山理科大学,³同志社大学,⁴ふじのくに地球環境史ミュージアム,⁵名古屋大学,⁶KIGAM

11 : 15-11 : 30 O2-3

東濃地科学センターにおける微量試料の放射性炭素年代測定法の開発 : JAEA-AMSTONO の最適な条件検討

○南谷史菜¹, 西尾智博¹, 藤田奈津子¹, 前田祐輔¹, 三宅正恭², 松原章浩², 北野敏彦³, 神野智史¹, 渡邊隆広¹

¹日本原子力研究開発機構,²株式会社ペスコ,³ビームオペレーション株式会社

11 : 30-11 : 45 O2-4 (学生優秀発表賞対象)

筑波大学における南極アイスコア中の ¹⁰Be と ³⁶Cl 測定の現状

○高見勇楽¹, 笹 公和¹, 松村万寿美¹, 高橋 努¹, 吉田哲郎¹, 三宅芙沙², 堀内一穂³

¹筑波大学,²名古屋大学,³弘前大学

11 : 45-12 : 00 O2-5

地上宇宙線生成核種による確度の高い地表剝速度決定法

○松四雄騎¹

¹京都大学防災研究所

12 : 00-13 : 00 昼休み・日本 AMS 研究協会運営委員会 (於 会議室)

3月26日(木)午後

Poster Session 1

13:00-14:00 ポスター発表コアタイム

Session 3 : AMS 研究報告 2

(座長)

14:00-14:15 O3-1

インド北西部Nidar オフィオライト複合体における沈み込み開始時マグマ活動と極端なマントル枯渇

○今山武志¹, 佐藤成修¹, Dutta Dripta¹, 金田泰明², 渡部将太², 長谷川 健², 南 雅代³, 若杉勇輝³, 若木重行⁴, Yi Keewook⁵

¹岡山理科大学, ²茨城大学, ³名古屋大学, ⁴国立歴史民俗博物館, ⁵韓国基礎科学研究所

14:15-14:30 O3-2

太平洋・インド洋における海水中⁹Be, ¹⁰Beの分布

○永井尚生^{1,2}, 田副博文³, 山形武靖^{1,2}, 松崎浩之²

¹日本大学文理学部, ²東京大学研究総合博物館, ³弘前大学被ばく医療総合研究所

14:30-14:45 O3-3

北太平洋における ¹²⁹I の起源

○山形武靖¹, 斉遠 志¹, 熊本雄一郎², 永井尚生¹, 松崎浩之¹

¹東京大学 MALT, ²海洋研究開発機構

14:45-15:00 O3-4 (学生優秀発表賞対象)

Differential uptake of iodine species by the coral *Galaxea fascicularis* under controlled laboratory conditions

○Shi Zhiyuan¹, Yuchi Takaku², Shinya Yamasaki², Yudai Shigekawa², Kimikazu Sasa^{2,3}, Keisuke Sueki², Aya Sakaguchi²

¹Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba,

²Institute of Pure and Applied Sciences, University of Tsukuba,

³Tandem Accelerator Complex (UTTAC), University of Tsukuba

15:00-15:15 O3-5 (学生優秀発表賞対象)

筑波大学における加速器質量分析法を用いた ²¹⁰Pb 測定の検討

○佐久間光紀¹, 坂口 綾², 松村万寿美³, 高橋 努³, 吉田哲郎³, 笹 公和^{2,3}

¹筑波大学理工情報生命学術院, ²筑波大学数理物質系,

³筑波大学応用加速器部門 AMS グループ

15 : 15–15 : 30 O3–6 (学生優秀発表賞対象)

CERN/CHARM 施設で照射したケーブル被覆中 Cl-36 の加速器質量分析

○木村龍拓¹, 吉田 剛², 松村 宏², 松村万寿美¹, 佐波俊哉², 石田正紀², 渡邊瑛介², 津金聖和², 李 恩智², 塩原良建³, 三橋正裕³, 八島 浩⁴, 平野雄生³, 中屋敷勇輔³, 大石晃嗣³, 栗田紗緒里⁵, 中田実希⁵, 佐瀬卓也⁵, Bui Ngoc Thien², 高橋 努¹, 吉田哲郎¹, 笹 公和¹

¹筑波大学, ²高エネルギー加速器研究機構, ³日本環境調査研究所, ⁴京都大学, ⁵核融合科学研究所

15 : 30–15 : 45 O3–7 (学生優秀発表賞対象)

ガス充填電磁石を用いたカルシウム 41 の加速器質量分析

○中居城大¹

¹東京大学 MALT

Poster Session 2

15 : 45–16 : 30 ポスター発表コアタイム & 休憩

Special Session

16 : 30–17 : 15 S–1

Recent Status of KIGAM AMS Laboratory

○Wan Hong¹, Junghun Park¹, Gyujun Park¹, Yongjin Park¹

¹Korea Institute of Geoscience And Mineral Resources (KIGAM), Korea

17 : 15–18 : 00 S–2

Electrosynthesis of silver and copper iodide for ¹²⁹I Accelerator Mass Spectrometry measurements

○G. S. Burr¹, Hiroyuki Matsuzaki², Takeyasu Yamagata², Hironori Tokuyama², Rick Chiu¹, Ching-Hua Lo¹

¹Department of Geosciences, National Taiwan University, Taiwan

²MALT, The University Museum, The University of Tokyo

18 : 00–18 : 10 記念写真撮影

18 : 30–20 : 00 懇親会

(於 名古屋大学 ES 総合館 1F レストラン「シェ・ジロー」)

Poster Session (於 セミナー室)

P-1

MALT Accelerator Report-令和6年度から現在

○徳山裕憲¹, 松崎浩之¹, 土屋陽子¹, 山形武靖¹, 戸谷美和子¹, 川本万里奈¹, Wang Lezhi¹

¹ 東大 MALT

P-2

大気海洋研究所シングルステージ AMS 施設の共同利用 10 年間のあゆみ

○宮入陽介¹, 横山祐典¹, 阿瀬貴博¹

¹ 東京大学大気海洋研究所

P-3

PIMS を用いた $\Delta^{14}\text{C-CH}_4$ 分析法の開発

○松井洋平¹, 阿瀬貴博², 石川尚人¹, 宮入陽介², 横山祐典²

¹ 海洋研究開発機構, ² 東京大学大気海洋研究所

P-4 (学生優秀発表賞対象)

Isotopic composition of ^{129}I in marine sediments from Beppu Bay: assessing its feasibility as an Anthropocene marker

○Shi Zhiyuan^{1,2}, Michinomu Kuwae³, Kimikazu Sasa^{2,4}, Masumi Matsumura²,
Tsutomu Takahashi², Yuichi Takaku⁴, Shinya Yamasaki⁴, Keisuke Sueki⁴, Aya Sakaguchi⁴

¹ Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba,

² Tandem Accelerator Complex (UTTAC), University of Tsukuba,

³ Center for Marine Environmental Studies (CMES), Ehime University,

⁴ Institute of Pure and Applied Sciences, University of Tsukuba

P-5

福島表層土壌中の I-129 に対する I-131、Te-129m の比較検討

○松村万寿美¹, 笹 公和¹, 末木啓介¹, 高橋 努¹, 松中哲也², 松崎浩之³

¹ 筑波大学, ² 金沢大学, ³ 東京大学

P-6

簸川平野と東郷池における放射性炭素年代測定による完新世堆積物の編年

○中西利典¹, 瀬戸浩二², 香月興太², 入月俊明², 齋藤文紀², ホン ワン³

¹ ふじのくに地球環境史ミュージアム, ² 島根大学, ³ KIGAM

P-7 (学生優秀発表賞対象)

最終氷期以降の湖沼堆積物に記録されるモンゴル高原南西部・オルゴイ盆地におけるヒ素の環境動態

○益木悠馬¹, 長瀬美羽¹, Davaasuren Davaadorji², 板山由依¹, 南 雅代³, 由水千景⁴, 陀安一郎⁴, 勝田長貴¹

¹岐阜大学, ²モンゴル国立大学, ³名古屋大学, ⁴総合地球環境学研究所

P-8 (学生優秀発表賞対象)

エルヘル湖の湖底堆積物分析による過去2万年間のモンゴル高原北部の環境変動解析

○高野真子¹, ダヴァドルジ ダヴァスレン², 益木悠馬¹, 落合伸也³, 南 雅代⁴, 由水千景⁵, 陀安一郎⁵, 勝田長貴¹

¹岐阜大学, ²モンゴル国立大学, ³金沢大学, ⁴名古屋大学, ⁵総合地球環境学研究所

P-9

秋田県湯沢市, コケ沼湿原の形成史復元: 特に浮島の成因について

平田竣也¹, 藤木利之², 黒木 瞭³, 林田 明⁴, 中西利典⁵, 南 雅代⁶, 門叶冬樹⁷, ホン ワン⁸, 林 優樹¹, ○奥野 充¹

¹大阪公立大学, ²岡山理科大学, ³建設技術研究所, ⁴同志社大学,

⁵ふじのくに地球環境史ミュージアム, ⁶名古屋大学, ⁷山形大学, ⁸KIGAM

P-10

十和田八戸テフラの埋没樹木年輪の放射性炭素年代測定

林 優樹¹, 木村勝彦², 南 雅代³, 三宅美沙³, ホン ワン⁴, ○奥野 充¹

¹大阪公立大学, ²福島大学, ³名古屋大学, ⁴KIGAM

P-11 (学生優秀発表賞対象)

焼岳火山群、中尾火砕流中の炭化木片の¹⁴C年代測定

○上田採佳¹, 南 雅代², 古田隼也¹, 東田和弘³

¹名古屋大学大学院環境学研究科, ²名古屋大学宇宙地球環境研究所, ³名古屋大学博物館

P-12

西部太平洋表層における炭素14の長期観測

○荒巻能史¹, 串橋聖子¹, 小林利行¹, 中岡慎一郎¹, 寺尾有希夫¹

¹国立環境研究所

P-13

完新世北極陸域海洋における水銀変動と気候変動との関連性について

○内田昌男¹, 万徳佳菜子¹, C. L. Ping², 岩花 剛^{2,3}, 梶田展人⁴, 山川 茜¹, 吉川謙二², 小林利行¹, 伊東素代⁵, 西野茂人⁵, L. Hinzman²

¹国立環境研究所, ²アラスカ大学フェアバンクス校, ³北海道大学, ⁴弘前大学,

⁵海洋研究開発機構

P-14 (学生優秀発表賞対象)

海藻標本を用いた高緯度海洋表層水の¹⁴C年次変動復元の試み

○石橋歩果¹, 南 雅代², 伊藤 茜³, 阿部剛史⁴, 谷水雅治¹

¹関西学院大学, ²名古屋大学, ³九州大学, ⁴北海道大学

P-15 (学生優秀発表賞対象)

父島長期観測(1990-2021)における炭素質エアロゾルの統合的発生源解析: 二重炭素同位体($\delta^{13}\text{C}$, $\Delta^{14}\text{C}$)とモデルによる制約について

○Shan Liu^{1,2,3}, 内田昌男¹, 万徳佳菜子¹, Bhagawati Kunwar², Ambarish Pokhrel⁴, Chunmao Zhu⁵, 小林利行¹, 河村公隆^{2,4}

¹国立環境研究所, ²中部大学, ³湖北理工學院, ⁴北海道大学, ⁵海洋研究開発機構

P-16 (学生優秀発表賞対象)

2018-2021年 名古屋における大気エアロゾル中の硫黄・炭素・微量元素濃度の変動

○夏目 花¹, 池盛文数^{2,3}, 久恒邦裕⁴, 片岡賢太郎¹, 浅原良浩¹, 南 雅代³

¹名古屋大学大学院環境学研究科, ²長崎大学環境, ³名古屋大学宇宙地球環境研究所, ⁴NCIES

P-17

学際領域展開ハブ形成プログラム「宇宙地球環境科学と歴史学・考古学を結ぶ超学際ネットワーク形成(TranSEHA)」の活動概要(2025年度)

○南 雅代¹, TranSEHA メンバー

¹名古屋大学宇宙地球環境研究所

企業展示

日時: 2026年3月26日(木) - 3月27日(金)

場所: 名古屋大学理学部南館 坂田・平田ホール前

伯東 株式会社

極東貿易 株式会社

エレメンター・ジャパン 株式会社

3月27日(金) 午前

8:30-9:00 受付

Session 4 : AMS 施設報告

(座長)

9:00-9:15 O4-1

東京大学大気海洋研究所加速器 (シングルステージ AMS および PIMS) の現状

○横山祐典¹, 宮入陽介¹, 阿瀬貴博¹, 安藤有加¹, 伊澤里美¹, 上野祥子¹, 平林頌子¹, 松井洋平²

¹東京大学, ²海洋研究開発機構

9:15-9:30 O4-2

PIMS と元素分析計の連携のためのソフトウェア開発

○阿瀬貴博¹, Richard Kitchen², 大久保 智³, 松井洋平⁴, 宮入陽介¹, 横山祐典¹

¹東京大学大気海洋研究所, ²National Electrostatics Corporation,

³エレメンター・ジャパン株式会社, ⁴海洋研究開発機構

9:30-9:45 O4-3

山形大学高感度加速器質量分析センターの現状 2025

○門叶冬樹¹, 森谷 透¹, 武山美麗¹, 小野利弘¹, 佐藤里美¹, 設楽理恵¹

¹山形大学高感度加速器質量分析センター

9:45-10:00 O4-4

国立環境研究所 AMS システムの現状 (2025)

○小林利行¹, 内田昌男¹, 寺尾有希夫¹, 荒巻能史¹, 万徳佳菜子¹, 沢田近子¹

¹国立環境研究所 地球システム領域

10:00-10:15 O4-5

JAEA-AMS-TONO の現状 (令和7年度)

○神野智史¹, 前田祐輔¹, 藤田奈津子¹, 三宅正恭², 松原章浩², 北野敏彦³, 南谷史菜¹, 渡邊隆広¹, 西尾智博¹, 小川由美², 木村健二¹, 花室孝広¹

¹日本原子力研究開発機構東濃地科学センター, ²株式会社ペスコ,

³ビームオペレーション株式会社

10:15-10:30 O4-6

パレオ・ラボ Compact AMS の現状 (2025)

○佐藤正教¹, 伊藤 茂¹, 廣田正史¹, 山形秀樹², Z.Lomtatishze², 中村賢太郎²

¹ (株) パレオ・ラボ AMS 年代測定施設, ² (株) パレオ・ラボ東海支店

10 : 30-10 : 45 O4-7

筑波大学 6 MV タンデム加速器質量分析装置における多核種 AMS の現状 (2025 年度)

○吉田哲郎¹, 高橋 努¹, 松村万寿美¹, 木村龍拓², 佐久間光紀², 高見勇楽², 笹 公和^{1,3}

¹筑波大学応用加速器部門 AMS グループ, ²筑波大学理工情報生命学院,

³筑波大学数理物質系

10 : 45-11 : 00 O4-8

東大 MALT の AMS システムの現状

松崎浩之¹, 山形武靖¹, 徳山裕憲¹, 土屋陽子¹, 戸谷美和子¹, 宮内信雄¹, 川本万里奈¹,
王 楽之¹

¹東京大学 MALT

11 : 00-11 : 15 休憩

11 : 15-12 : 00 日本 AMS 研究協会総会・学生発表賞表彰式

12 : 10-13 : 00 昼休み

協賛

伯東 株式会社 / 極東貿易 株式会社 / エレメンター・ジャパン 株式会社
株式会社 パレオ・ラボ

3月27日(金) 午後

公開講演会

「宇宙・太陽・地球・人類をシームレスにつなぐ AMS 融合研究の新展開」

- 13:00-13:10 開会挨拶
名古屋大学宇宙地球環境研究所
超学際ネットワーク形成推進室室長 南 雅代
- 13:10-13:40
短寿命放射性核種による年代測定から明らかにする小惑星リュウグウの形成と進化
茨城大学理学部 地球環境科学コース 藤谷 涉
- 13:40-14:10
AMS を用いた過去の太陽活動研究の進展と展望
名古屋大学宇宙地球環境研究所 三宅美沙
- 14:10-14:40
 ^{14}C と有機化学成分で読み解く大気エアロゾルの発生起源
長崎大学総合生産科学域 (環境科学系) 池盛文数
- 14:40-15:10
南極の氷床に残されている ^{10}Be 記録への気候変動の影響
名古屋大学宇宙地球環境研究所 栗田直幸
- 15:10-15:40
ICP-MS と AMS を用いた環境中ウラン汚染の起源推定
学習院大学理学部 大野 剛
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-16:20
歴史文献による太陽活動復元と年輪・氷床コアデータとの比較
名古屋大学宇宙地球環境研究所 早川尚志
- 16:20-16:50
新たな ^{14}C 研究から描くこれからの考古学編年
東京大学総合研究博物館 大森貴之
- 16:50-17:20
レーザー分光による ^{14}C 同位体分析法の開発
名古屋大学大学院工学研究科 富田英生
- 17:20-17:50
研究データの可視化・検索性の向上を目指したメタデータ変換システムの開発と展開
名古屋市立大学データサイエンス学部 能勢正仁
- 17:50-18:00 閉会の辞